

# 小辻梅子先生の思い出

英語英米文学科 清水 啓子

小辻梅子先生は、わたくしが熊本県立大学文学部に赴任した1999年に英語英米文学科の学科主任をされていたらっしゃいました。わたくしの方は大学院博士後期課程を終えて1年ばかりで本学での専任講師の職を得て、大学教員という未知の仕事を、それも初めての九州という土地で始めることになったのですが、学科主任だった小辻先生はまず、文学部の先生がたの研究室一つひとつに案内して紹介してくださいました。

小辻先生のご専門は英文学で、学部と大学院で教えておられました。九州大学文学部をご卒業後、長崎造船大学、後に名称を改めた長崎総合科学大学を経て、熊本県立大学へ来られたそうです。英文学の中でもケルト文学を専門に、その小柄で華奢な体つきからは想像もつかないほどの研究業績を残されています。たとえば、インターネット書店で先生の名前を検索すると、次のようなご著書が見つかります。

## 【単著】

『イギリス文学の伝統と現代 スウィフト、ジョイス、マードック、スパークを中心に』 荒竹出版 1978年

『ケルト的ケルト考』 社会思想社 1998年

## 【共編】

『二つのケルト その個別性と普遍性』 山内淳共編 世界思想社 2011年

## 【翻訳】

『ポートベロー通り スパーク幻想短編集』 ミュリエル・スパーク（著） 社会思想社（現代教養文庫）1990年

『ケルト幻想民話集』 訳編 社会思想社（現代教養文庫）1993年

『ケルト妖精民話集』 J. ジェイコブズ（編） 訳編 社会思想社（現代教養文庫）1994年

『ケルト魔法民話集』 訳編 社会思想社（現代教養文庫）1995年

わたくし自身の専門が英語学で文学には疎いこともあり、小辻先生とは学科運営のことでお話するのがほとんどで、先生のご専門については余り詳しくないの

ですが、先生のご著書からわかるのは、小辻先生は、長崎の五島列島のお生まれで、九州大学文学部英文科をご卒業され、卒業論文にスウィフトの『ガリヴァ旅行記』を選んだのを機に、英文学研究、特にスウィフト研究を志し、その後アイリス・マードックやミュリエル・スパークといった女流作家に研究を広げ、ケルト文化、アイルランド文学を中心に広くご研究されていた、ということです。長崎造船大学時代の初期の研究を最初の単行本『イギリス文学の伝統と現代 スウィフト、ジョイス、マードック、スパークを中心に』としてまとめられ、その後も、上にあげたような翻訳書や研究書を世に送り出しています。

特に専門に研究されている英文学作家のひとりにはスパークと伺ったことがあります。ミュリエル・スパーク（1918～2006）はスコットランドのエディンバラ生まれの女性作家で、鋭い語り口の作家のようです。小辻先生ご自身は穏やかな人柄でしたが、ケルトの幻想文学やスパークの作品と通じる、世界の細部を見抜く魔法の術を、実は隠し持っていたに違いありません。

わたくしが赴任した1999年に、アメリカ文学がご専門の田中啓介先生が中心になって熊本県立大学英語英米文学会（ELLA）を創設され、英語英米文学科の1年生全員で天草までバス旅行をすることになり、小辻先生とわたくしがバスの調達係を仰せつかり、二人でバス会社に電話交渉したのを覚えています。

先生は2002年に本学を退官され名誉教授となりましたが、その後も文学部フォーラムなどで来学されお目にかかることがありましたので、あいかわらず魔法使いよろしくさかさかと翻訳などされて元気にしておられるのだらうと思っていましたが、2014年の春に ELLA へ先生のご訃報が伝えられました。

小辻先生が本学文学部英語英米文学科の学生たちのために残された寄付をもとに「小辻梅子奨学金」が創立しました。この奨学金は、英語英米文学科の学生さんたちが、在学中に海外へ留学するのを支援するものです。小辻先生からのこの贈り物で、英文学やケルト文学、英語圏文学の研究が本学文学部英語英米文学科でさらに発展し続いていくことを願っています。

